

教材使用報告書

| | |
|---|--|
| 1 | 機関名：サハリン州、ユジノサハリンスク市、3番ギムナジウム |
| 2 | 報告者名：キム エンギ |
| 3 | 使用教材名：絵で導入、絵で練習、日本語大丈夫、その他 |
| 4 | 使用クラス概要：1・2学年、10名、週に4時間、初級、授業の流れによる使用時間が変わる。 (学年、クラス名、1週間の日本語授業時間、学習者レベル、人数 使用した期間、または頻度、等) |
| 5 | そのクラスで新しい教材を使用した目的：初級ならなるべく早く日本語が身に付く為には表現文型をもって教授することが必要です。自由発言の1つの手法。 |
| 6 | 教材使用例：もちろん、上記の教材はそのまま使わず、色々工夫しながら導入する。ただ、教案の目標に応じて調整しなければなりません。重要なのは各文型を発音に注意しながら自動発言までに練習させること。次第の表現文型の提供と訓練は何よりです。 ・メインテキストとして使用したのか、副教材としてか ・具体的な授業例があれば、授業概要を書いてください ・授業のために作った配布物や、副教材としての使用スケジュールなど、参考になる資料があれば、添付してください。 |
| 7 | 教材を使用した成果、効果；簡単に判断できないけれども、その効果は総合的なもので、一応、学習者は使いこなせるようになった場合、最高の証拠である。 |
| 8 | 教材について、使用しにくかったところや、今後の課題など：上記に申し上げたように、上手に副教材を使う場合は有利があり、逆なら意味がなくなる。教材の内容は別として、どういう形で使用するかは大事なのです。無論、教材がたくさんあればあるほど良いことですが、その中から有効なものを選択するのが一番大切で困難なことです。最後、学習者の希望、将来、能力に応じて頂いた教材をうまく使うべきである。 |

9 その他、「日本語教材セミナー」についてのご意見、ご感想があれば、教えてください。